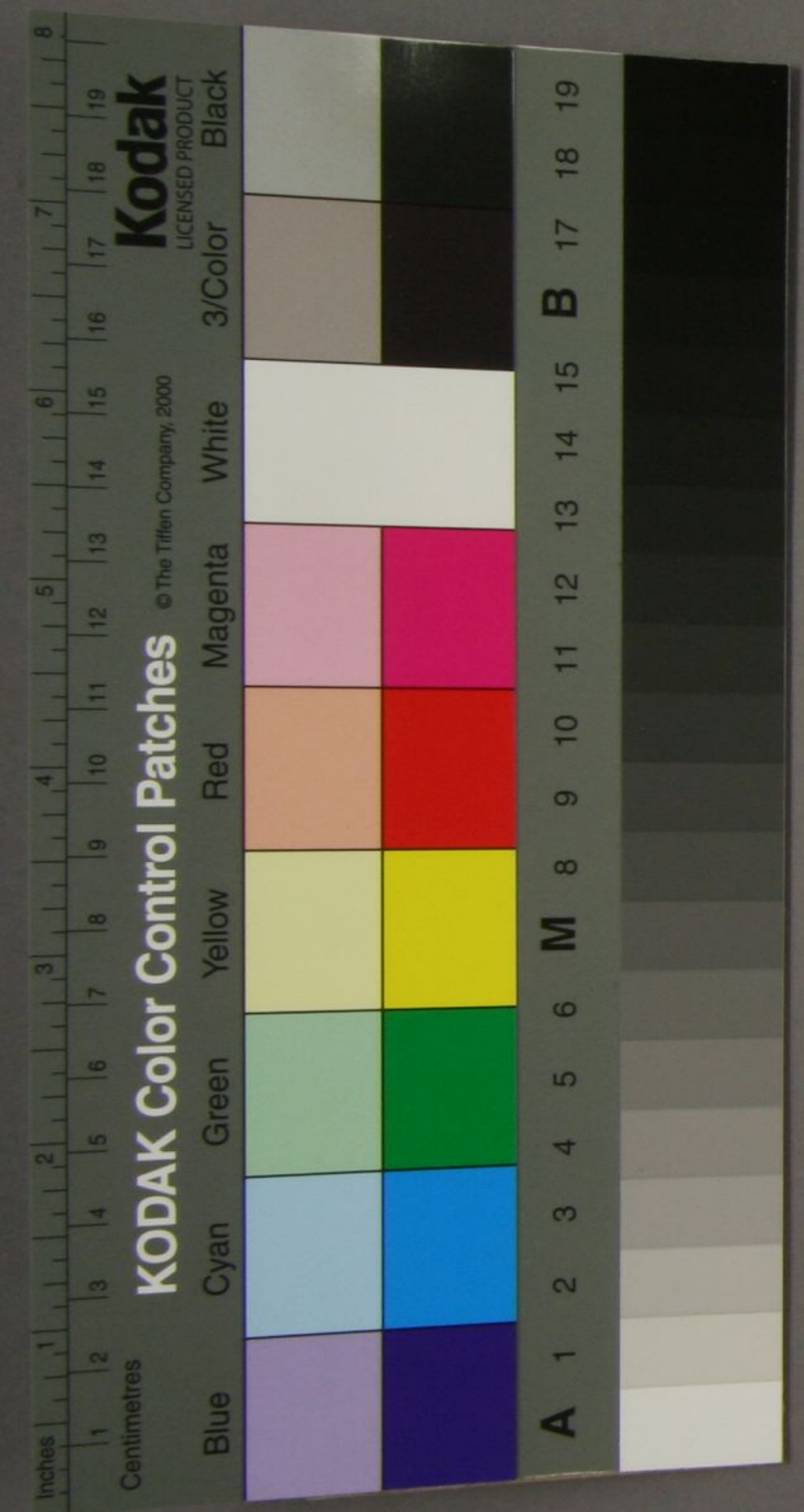


114
A 510



謹書ヲ内閣總理大臣伯爵大隈重信殿閣下ニ
 呈ス繁人嘗テ職ヲ司法官ニ奉シ聊カ司法部内
 ニ經歷アルヲ以テ茲ニ不遜不敬ヲ顧ミテ愚見
 ヲ開陳シ以テ閣下施政ノ参考ニ供セントス幸
 ニ公暇清覽ノ榮ヲ給ハラニコトヲ
 抑司法部ニ羽黨ノ積弊アリトハ久シク人ノ唱
 フル所ナリト雖モ其部内ニ在テハ未ダ局外者
 稱スルカ如キ甚ニ事情アルヲ見サリニ十
 リ然ルニ前内閣ノ危解スルニ際ニ時々司法大
 臣曾根荒助ハ其職ヲ去ルニ臨ニテ老朽判事ノ
 淘汰ト唱ヘ非常ノ黜陟ヲ行フタリ於是乎司法

大正十一年四月
大隈侯爵邸書



部内漸積因襲、弊一朝暴露、茲全ク外觀上
明黨結託、實相ヲ露ハスニ至レリ、昨今世ニ喧
傳スル所、横田問題、如キハ即チ其真相ニシ
テ該問題タルヤ、甲是乙非、兩論ヲ駁、其底止スル
所、トシト雖モ繁人惟テ前司法大臣曾根荒助
ノ行為、畢竟違憲違法ノ識ハ免シ得サルヘシ
請フ其理由ヲ述ヘシ、抑憲法第五十八條第二項
ニ裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ル
ノ外、其職ヲ免セラル、コトナシト、不羈獨立
ノ保障ヲ定メ、裁判所構成法第七十四條ニ於テ
判事ノ身体若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執
ルコト能ハカルニ至リタルトキハ司法大臣ハ

控訴院又ハ大審院ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命
スルコトヲ得ルト、除外例ヲ規定セリタリ
氏ノ法律ヲ解釋スルニ除外例ハ挾義ニ解スヘ
シトハ一般ノ原則タリ、尤スルハ該條ノ明文ニ
依リハ判事ノ退職ハ身体若クハ衰弱ニシテ以
テ未タ足レリトセス尚之レカ為メ判事タル職
務ヲ執ルコト能ハサルハ二要件ヲ具備スルヲ
要ス加之右ニ要件ヲ具備スルモ尚且司法大臣
ハ之レヲ以テ直チニ退職ヲ命スルコトヲ得ス
必スヤ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ附シ其決議
ヲ經タル後ニテラサレハ之カ退職處分ヲ為ス
コトヲ得ラルナリ、然ラレハ國家ハ該判事ニ

對ニ恩給法ニ所謂自己ノ便宜ニ依ル退官ナシ
恩給ヲ給スル義務ヲ負ハサレハナリ然ルニ
某司法大臣タリシ以来本人ノ請願ニ依ルモノ
ハ總會ノ決議ヲ給ス直ク之ニ退職ヲ命スル
コトヲ得ルトノ解釈ヲ爲シ其理由ニ曰ク畢竟
本人ノ情願ニ因ルハ其判事ノ名譽ヲ保持スル
所以ニシテ其意思ニ反セサルノ處分ナリト云
フニ過キワルモ斯ハ徒ニ司法大臣ノ認定ニ重
キヲ置キ其職權ヲ擴張シテ法ノ精髓ヲ解シ得
タルモノト云フヘカラフルナリ右ハ法律ノ解
釈ニ止マルト雖モ司法ノ制度上至大ノ關係ヲ
有スルモノナリ今回淘汰セラレシ判事ノ處分

ヲ聞クニ大審院判事中村元嘉其他判事カ司法
大臣ノ諭告ニ從テ退職願ヲ爲シタルハ各老朽
ヲ自認シタルニアラサルナリ司法大臣ハ右判
事ニ諒クニ總會ノ決議ニ附ヤラハハ名譽毀
損云云又自ラ退職ヲ出願セハ休職若クハ進級
ノ利益ヲ失フヘシトテ之ヲ誘導シ且一面大審
院判事中總會ニ列スヘキ者ニハ其内旨ヲ傳ヘ
決議ノ豫防ヲ強請シタリト既ニ判事中村元嘉
其他ノ判事ハ孰レモ當時出勤執務中ニ在テ大
臣官房ニ喚ハレタルトノ事實ハ是レ即チ身体
若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハ
サル者ニアラサルト現証ナラスヤ斯ハ畢竟自

由任意、行為ニテラスレテ司法大臣ノ監督權
限ヲ超ヘタル不法行為タルヤ明ラナリ
以上司法大臣曾根荒助ノ行為ハ甚ク不法タル
ヲ免カレシスト雖モ是等ノ事ノ因テ生スル所以
、モノハ蓋シ剛毅清廉操心公平ノ士漸ク相去
リ輕薄諂諛ノ輩要路ヲ閉塞スル故ナリト云ハ
サルヘクラス近來輕薄者ノ行為ヲ視ルニ已レ
ヨリ上位ニ在ル先輩老練者ヲ目シテ先朽ト呼
ク之ヲ排斥シテ已レ其地位ニ代ハラニコトノ
ミニ汲々たり故ニ判事本分ノ職務ニ對シ意ヲ
注クコト甚薄リ且又已レ事務ノ敏捷ヲ以テ称
セラレシコトヲ歎シテ裁判上聽クヘキヲ聽カ

ガ質スヘキヲ質サス唯事件ノ終局ノミヲ之レ
急クニ因リ其裁判甚シキ粗漏ヲ極メ又之カ監
督官ニ在テモ亦深ク其本分ノ執務如何ヲ審ニ
調査セサルカ故ニ裁判ノ精粗當否ハ一身ノ榮
達ニ関セサルモノトシ唯諂諛ヲ事トスルニ至
レリ繁人唯フニ監督官タル者其部内ヲ監督シ
其人ヲ選拔スルニ當リ先ツ其人ノ操心公正ナ
ルヤ否ヤ其事務取扱ノ忠實ナルヤ又上級裁判
所ニ於テ裁判ヲ廢棄セシムル事ノ多ヤ否ヤ判決書ノ
大詞理由備ハルヤ否ヤ等專ラ其本分ノ職責ニ
就キ充分注意ヲ為シ以テ其有為當器ノ人ヲ選
ハラル可カラズ若シ苟クモ操心公正ナラス本

務ニ忠實ナラザルノ輩ハ後令學術技能ヲ有シ
多少事務ニ練熟シタル者トモ其心事ノ卑劣
ナルノ故ヲ以テ之レカ進級ハ宜シク斟酌シテ
公正忠實ノ士ニ先クシテ以テ司法官ノ風紀
ヲ振起作興セサル可カラズ彼ノ陸海軍ノ其軍
人統御ヲ見ヨ實ニ
陛下ニ對シ奉リ其忠實心ノ厚キ他邦人ノ遠ク
及ハサル所ナリ是レ當局者カ軍人ヲ養成スル
ニ忠實ノ二字ヲ以テ薰陶シ苟クモ利欲ニ傾
者アルハ同僚輩ヲ之ヲ界ムノ風ヲ養成シタル
ニ因ル若シ軍人ニシテ今ノ裁判官ノ如ク上官
ノ失誤ヲ窺ヒ已レ其地位ヲ奪ハニトスルカ如

キ輕薄卑劣ノ風ヲ生セシハ眞ニ國家ノ失体
ヲ醸生スルヤ必然タリ且ニク司法官モ亦軍人
養成ノ方針ヲ以テ風紀ヲ保持セサルヘカラス
殊ニ裁判官ハ憲法第五十七條ニ基キ天皇ノ
御名ニ於テ裁判ヲ典フヘキモノナレハ裁判官
ノ職務ニ忠實ナラス其裁判ノ粗漏ナルハ畏多
クモ
陛下ニ對シ奉リ御不徳ニ歸スヘキ結果ヲ生ス
ルモノナレハ深ク之ヲ思ハサルヘカラス夫レ
人民ノ生命財産ヲ保護スルハ裁判權ニアリ其
無上ノ權能ヲ有スル裁判官ニシテ標心公正ナ
ラズ職分ニ忠實ナラス曲直其實ヲ得ズ粗漏不

公平ノ裁判ヲ為スニ至テハ純良潔白ノ良民ハ
常ニ奸詐不良ノ徒ニ害セラルルニ至リ亦冤枉
ヲ伸クル能ハサルナリ若シ如此ノ弊風ヲ醸生
セハ人心背離ニ終ニ云フ可カラカレ失休ヲ来
タカニ試ニ裁判所構成法實施前後ニ照シ如何
ニ風紀ハ保持セラルシカ將テ如何ニ風紀ハ紊
乱セシヤ且法律學ヲ専門ニ修メタル裁判官許
多ノ時代ト否ラカレ時代トテ比較ニ孰シカ判
族事ニ收賄罪ノ多キヤ否ヤヲ觀察セラルヨ
成法實施以前ノ裁判官ハ風紀却テ嚴肅ニ法律
専門ニ修メタル裁判官多キニ却テ收賄罪ノ多
キニアラスヤ是畢竟判族事ノ選叙其當ヲ欠キ

公正忠實ノ士常ニ疎外セラル却テ輕薄諂諛ノ
輩相進ニ司法ノ風紀敗壞ニタル徴証ト云ハ
サルベカラス今ニシテ之シカ改善ノ策ヲ講シ
之カ弊ノ因ヲ来ル所ヲ矯正セサレハ他日不測
ノ弊害ヲ醸生スルヤ火ヲ賭ルヨリ明カナリ是
繁人ノ杞憂ニ堪ヘカレ所ニシテ尚善後策ニ関
シ多少ノ管見アリト雖モ目下新法實施改正條
約實施ノ期眼前ニ迫リタル今日ニ在テ司法部
内閣黨結託ノ弊當ニ之カ荏伐掃蕩ノ期一日モ
緩フスヘカラサルナリ一念茲ニ到レハ衷心敢
テ黙過スルヲ得ス以上ノ如ク管見ヲ披陳シ夕
幸ニ閣下其文詞ノ不敬ヲ問ハス施政ノ參

考資也... 敢仰望... 堪... 考資也... 敢仰望... 堪... 考資也... 敢仰望... 堪...

廣島縣廣島市下中町六番地平民
廣島地方裁判所屬辯護士
正五位勲五等 三坂敏系人

明治三十五年十月

內閣總理大臣伯爵大隈重信殿

華... 五... 士... 親... 按... 疎... 詰... 給...

